

CASE STUDY

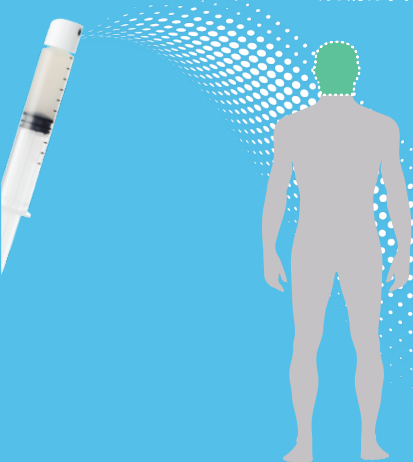
Rajiv Sood, MD, FACS

Burn and Reconstructive Centers of America
Augusta, GA

患者の状態

顔面部(約最大7%TBSA)に高温液体による深達性部分層熱傷及び重大な気道熱傷を受傷した43歳男性。特筆すべき病歴は無い。

RECELL 治療部位



結語

本症例では、7%TBSAの顔面熱傷に対する治療でSpray-On Skin Cellsの使用が示されている。最前線での治療プロトコールとして自家植皮術が従来の治療法として適応されている一方、RECELLシステムを使用した治療では、術後2週で再上皮化と色素再生が得られるという結果となった。

同種移植実施7日後



RECELL治療当日



術後14日



治療法

患者を固定してすぐに手術室に運び、適切に蘇生術を行った。初回デブリードマン後、顔面熱傷を網状加工を施した同種移植片で被覆した。所属外科医が熱傷受傷部位の評価を行い、乳頭層から網状の真皮熱傷と診断し、従来の標準的治療であれば自家植皮術が前提となると考えた。しかし、同種移植から10日が経過し、患者を手術室に運び、同種移植片を除去したところ、母床が「非常に良い」状態であったため、Spray-On Skin[™] Cells単独で治療する決心をした。

臨床的アウトカム

一次ドレッシング材の除去は、RECELL治療から2週間後に実施された。母床は鼻の先端を除くほぼ全てが完治していた。医師はSpray-On Skin Cells適用から2週間後に完全上皮化および色素再生を確認した。

